

バイオ・ライフサイエンス



キーワード：セルフケア、ヘルスリテラシー、冠動脈疾患

冠動脈疾患（心筋梗塞・狭心症）患者のセルフケア支援 プログラムの開発

看護学部 看護学科 教授

稻垣 美紀 INAGAKI Miki

研究の内容

わが国の冠動脈疾患の有病率は増加しており、狭心症や心筋梗塞等の心疾患での死因は年間約17万人を超える死亡原因の第2位となっています。患者は、急性期では経皮的冠動脈形成術（PCI）や冠動脈バイパス術（CABG）といった治療を受けます。これまでの調査において、治療後に再発予防のセルフケア（心臓を守るために日常生活や習慣的な運動）を実施することが生活の質を維持・向上することがわかりました。しかし、セルフケアへの負担感や疾患に関する情報を上手く入手し活用する意欲や能力（ヘルスリテラシー）の低さから、セルフケア不足や生活の質の低下につながることが危惧されます。そこで、冠動脈疾患患者を対象としたセルフケア支援のプログラムを開発・評価することを目的とし研究をすすめています。急性期病院を退院した患者が、在宅でセルフケアを継続できるには、通院時のサポートだけでなく、遠隔支援・ICT（情報通信技術）の活用も含めて、個々の患者のニーズやリテラシーに沿ったプログラムの開発を目指しています。



心臓を守るための日常生活や
習慣的に運動すること が重要です

【実施した調査】

1. 血行再建術後患者の遠隔支援ニーズに関する面接調査

調査項目：現在受けているセルフケア支援内容

セルフケアに必要な情報を獲得及び理解するまでの課題と
期待するセルフケア支援

2. ヘルスリテラシーとセルフケア実践に関するアンケート調査

調査項目：ヘルスリテラシー、セルフケア実践度、ICTリテラシー
健康関連QOL、ソーシャルサポート等



【開発予定プログラム】

- ・対象に沿った目標設定・ICTリテラシーに沿った健康機器の選択
- ・定期的な遠隔支援、対象にニーズに沿った個別支援
- ・アプリを活用したサポート

産学連携・社会連携へのアピールポイント

冠動脈疾患患者だけではなく、セルフケア支援において遠隔支援での有効性が示されている一方で、プログラム開始時の対象者のICTリテラシーに沿った機器の導入、通信も含めた使用環境において継続的なフォローが課題となっています。産学連携によって、このような課題がクリアできれば、冠動脈疾患患者の支援だけでなく、地域で生活をする中高齢者を対象とした疾患の再発・悪化予防、健康増進の支援にも応用できると思われます。

研究者総覧（稻垣 美紀）

URL : https://gyoseki.setsunan.ac.jp/html/100001271_ja.html

